

活動経過

2018年度	作業回数16回 延べ人数65人 延べ作業時間196時間
2019年度	作業回数25回 延べ人数67人 延べ作業時間201時間
2020年度	作業回数34回 延べ人数85人 延べ作業時間259時間
2021年度	作業回数30回延べ人数115人 延べ作業時間345時間
2022年度	これから活動を開始します。



夏場の風景 上り線と下り線の間にある樹木は廃線後に自然に生えた木

私たちのフィールド

当会が整備活動を行っている信越本線碓氷峠の露天エリアの風景です。左側の線路が下り線、右側の線路が上り線です。この先は、下り線は2号トンネル、上り線は1号トンネルになって峠を登ります。線路に並走する道路は霧積温泉に通じる県道56号線です。右奥に見える構造物は霧積ダムです。2022年3月に線路近傍の大きくなった樹木を伐採して廃線前の景観を蘇らせました。碓氷線の特徴である線路敷き面のコンクリート格子が良く見えるようになりました。道路沿いの広葉樹は冬枯れで葉を落としてます。(写真は3月31日に撮影)



会報第7号の原稿募集中 信越本線碓氷峠廃線25周年特集 (2022年9月31日発行予定)

碓氷峠の廃線について、ご意見、感想、思い出等がありましたらぜひ寄稿をお願いします。お待ちしております。

会員募集中・ご寄付も募っています。 2022年 微力ですが碓氷線の景観を蘇らせて保全を考える活動を実施中

入会・ご寄付のお問い合わせはホームページから、またはEメールにてお願いします。
Eメール: usuitouge@gmail.com

【振込先口座番号】
ゆうちょ銀行 記号;10470 番号;30923081
他金融機関から振り込む場合
店番;048 普通預金 口座番号;3092308
名義人; 碓氷峠鉄道再生研究会



検索

碓氷峠鉄道再生研究会
<http://www.bea.hi-ho.ne.jp/ef62/>

碓氷峠鉄道再生研究会

会報

令和4年3月31日発行
第6号 (年2回発行)
発行責任者 梶村純一
〒379-0223 安中市松井田町
二軒在家 307-8
TEL:027-393-1531
usuito.ge@gmail.com

碓氷峠鉄道再生研究会

会報第六号

廃線から25年になります

事務局

横川駅で最後の列車あさま37号を見送ってから、今年の9月30日、25年になります。

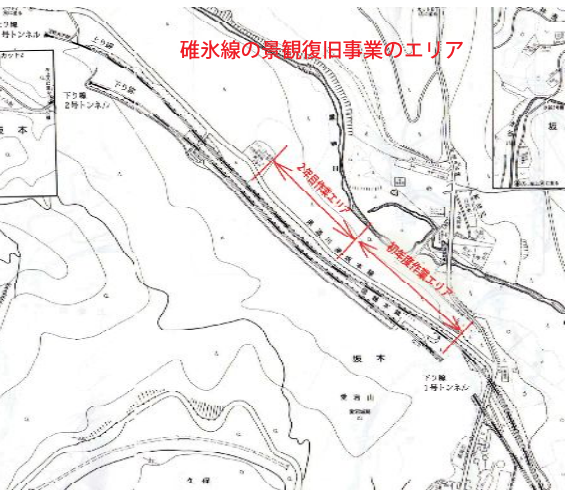
廃線から20年間放置されて山に還っていた上り線の線路を掘り出す活動を始めてから、今年度で5年目になります。

1年目は有志5人で作業を始めました。草と木で完全に埋もれてしまった線路を発掘するような作業で、1m進むのも大変で約5か月かけて、峠の湯付近から1号トンネル出口までの線路敷きを歩ける状態にまで整備しました。この年、安中市観光機構のメンバーが下り線の整備を行い、廃線ウォークを開始しました。当会が整備した上り線の露天エリアも廃線ウォークに使用してもらい、廃線ウォークのコースのメニューが増えました。

2年目は、レールの近傍に残った切り株や灌木を除去して、レールの上を車輪が通れるように整備して軌道自転車の走行実験が出来るように整備しました。

3年目は、軌道自転車の試作を行い、線路に載せて走行実験を開始しました。66.7パーミルの急勾配であっても多段変速付の軌道自転車であれば、問題無く走行できることを確認しました。しかし、試作1号機は、コスト優先で作成したため耐久性が無く、約半年の走行実験で歪みが生じて脱線しやすくなったために走行試験は中止しました。現在、軌道自転車の改良を検討中です。線路敷きの整備も進んだので、線路敷きの法面の立木や灌木を伐採して廃線前の景観を蘇らせる活動も開始しました。

4年目は、安中市の市民活動推進事業補助金に応募して、運よく採用されました。3年間で最大4.5万円の活動資金をいただくことが出来ます。資金の使い道として、廃線後の自然に線路敷きの近くには、自然に生えて大きくなった木が多数あります。これらの木は、素人では伐採するのが難しく、大きさは成長しており、枝が架線や架線柱と絡みあがりして伐採には特殊な技能を必要とします。そこで、専門の林業者によ



碓氷線の景観復旧事業のエリア

依頼して伐採してもらうことになりました。整備する区間を決めて3年計画で伐採を行います。初年度は、下り線1号トンネル出口付近から、県道脇1番目の階段までの約250mの区間から伐採を行いました。限られた区間ですが廃線前の碓氷線の景観を蘇らせることが出来ました。

5年目(今期)の活動は、昨年に引き続き景観の復旧と維持に尽力します。休止していた作業用の軌道自転車の改良も行う予定です。

碓氷の露天エリアの思い出

信越本線碓氷峠(碓氷線)は、ほとんどがトンネルですので鉄道写真を撮る場所は限られています。

めがね橋の奥にある碓氷川橋梁か、峠の登り口の県道北軽井沢線に沿った辺りしかありません。今回、景観を蘇らせた辺りが鉄道写真の撮影ポイントになりました。この風景を見て当時を思い起こす人も多いと思います。

私は、ここで写真を撮りそこなった思い出があります。廃線も間近な時期にダイヤ情報を調べて写真を撮りに行きました。峠を下って来る列車を待ちました。予定の時刻をかなり過ぎてても現れない。夕方薄暗くなってきたので連休になったので、兵どもが夢の跡が残されているのです。私たちが整備して蘇らせた景観は、兵どもが夢の跡なのです。こんな場所に鉄道を敷いて鉄道を運行させたのもつわものであり、根性で写真を撮る鉄道ファンもつわものです。夢の跡であるこの景観を草生したままにせず後世に残していきたいと考えております。

(現在は、線路敷きは立ち入り禁止になっています。)

この撮影者の凄じ所は、夕方薄暗くなっているのに車のライトを使って機関車を照らして撮影しています。車のライトがこんな上を向くわけがないので、車をジャッキアップしてライトの光軸が電気機関車のほうを向くように工夫して撮影しています。この機転と根性は凄じと思います。こういう鉄道ファンの人たちのおかげで碓氷線の貴重な映像が残されているのです。私たちが整備して蘇らせた景観は、兵どもが夢の跡なのです。こんな場所に鉄道を敷いて鉄道を運行させたのもつわものであり、根性で写真を撮る鉄道ファンもつわものです。夢の跡であるこの景観を草生したままにせず後世に残していきたいと考えております。



峠を下りてきた5重連

信越本線碓氷峠 廃線前の景観



追憶の彼方に消えた
信越本線碓氷峠の
景観を蘇らせた

廃線後20余年の歳月を経て山に還った信越本線跡



1997年の廃線から20余年を経て山に還ってしまった信越本線跡を管理者である安中市の許可を受けて2018年から整備作業を開始しました。碓氷峠の線路の特徴であるコンクリート格子の法面もすっかり草木に覆われていま

2022年3月 市民活動推進事業補助金を活用して整備した信越本線跡



したが、作業を重ねて木々や灌木を除去して整備してきました。最後に残った大きな木は、素人では伐採が困難なので補助金を活用して専門の林業屋さんに頼んで伐採しました。約250mの限られた区間ですが、往時の碓氷線の景観

を蘇らせることが出来ました。廃線跡の線路敷きは安中市が管理しており現在は立ち入り禁止になっております。将来的にはこのエリアを鉄道公園にして、碓氷峠の勾配に挑む鉄道の姿を多くの人に見ていただきたいと思っております。

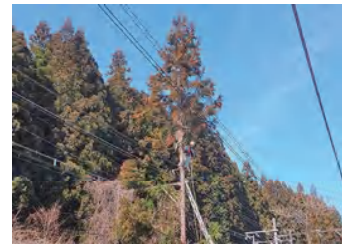


この場所は、碓氷峠の鉄道写真の原点となる場所です

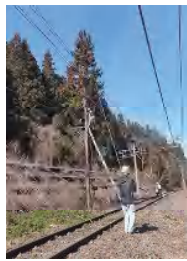
コンクリート格子の中に割石を石垣のように綺麗に積んでいる工法が碓氷線の露天部分の特徴です。鉄道遺産として残したいと思っております。

『プロの林業屋さんに立木の伐採を依頼しました』

市民活動推進事業補助金を用いただけのことになりましたので、今まで素人では手が出せなかった大きな木の伐採を依頼することにしました。廃線後に自然に生えた木も20数年経つとかなり大きくなっています。素人が不用意にチェーンソーで伐採すると架線に付随する部品を損傷するおそれがあります。そこで、大きな木の伐採を専門に行う林業屋さんに依頼しました。



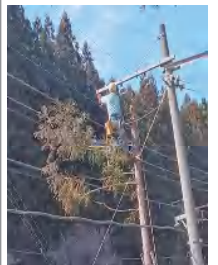
木の根元からいきなり切ってしまうのではなく、木に梯子を掛けて登って先ず枝を落とします。次になるべく高い所にロープを結び張って倒す方向を決めます。梯子を上った高い位置でチェーンソーで木の上部を切つて落とします。最後に、梯子から降りて丸太になった幹を根元から伐採します。写真の例では、1本の木を切るのに3人がかりで作業しています。正確に倒す方向をコントロールするには、なるべく高い所に登って、



高い位置にロープを結びつけることがポイントです。下の写真の例では、電柱の碍子に枝が絡みついた木を伐採するところですが、これも木の上部を切り落とした後、碍子を固定しているボルトをスナバで緩めて碍子を取り外して枝の処理を行います。また碍子を元に戻すという手数のかかる作業を行っています。林業屋さんのチェーンソーの小板橋さんは、国鉄時代の碓氷峠で線路に張り出した樹木の除去作業をやっていたそうです。この辺りでの仕事もやっていたそうです。

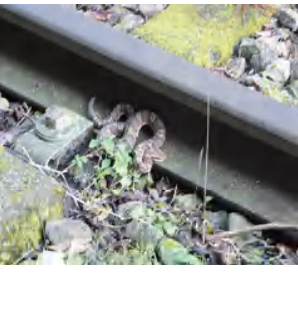
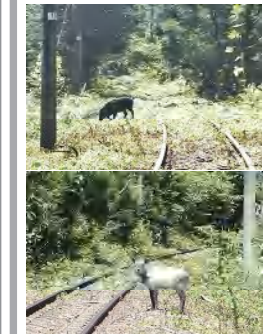


碓氷線のコンクリート格子の中の石垣には、マムシがよく出たそうです。そう言えは何度かへびを見ますがそれはマムシだったのでしょうか。また、東京電力の高圧線の鉄塔の下の木々の伐採などの仕事もやっていたそうです。今回は、林業屋さん4名に2日間作業をお願いしたのですが今年度に予定していた区間の整備は終了しました。次年度は整備区間を延伸する予定です。



『碓氷線で出会った動物たち』

マムシの話が出たついでに、線路作業をやっていたて出くわした動物たちを紹介しておきます。線路ではマムシに出会うことがありますが、これに噛まれたら命にかかわる大変なことになります。



サルの群れは時々見かけます。架線を伝って移動することもあります。イノシシは襲って来ると怖いですが、見かけた近づかないことです。カモシカは驚かせないように見えますが人に向かって突進してくることがありますので要注意。熊には、まだ出会ったことがありませんが碓氷峠にも生息しています。